『人間関係研究』第24号の刊行にあたって

2024年度から、人間関係研究センターのセンター長をお引き受けすることとなりました。この役割を持ちながら日々の活動に参加してみると、一センター員の時には知らなかったことや気づいていなかったことが、本当に沢山あったのだとわかります。事務局スタッフの方々が、毎日、ありとあらゆるお仕事を分担かつ連携しながら、このセンターの営みを牽引してくださっていること。センターの活動に関心を持ってくださっている方が、こんなに多くいらしてくださるのだということ。とてつもなくお忙しい学務の中でも、センター員それぞれの専門性にどんどん磨きがかかっていくご様子。4月から半年間を過ごしてみて、日々、当センターに関わってくださっている方お一人おひとりへ深い感謝の思いを感じながら、たくさんの刺激をいただいています。改めて、みなさま本当にありがとうございます。

『多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会を創り出すために』をミッションとする南山大学人間関係研究センターでは、様々な研究と実践を通して、人間性豊かな社会の実現に貢献できるよう、努力を続けています。実践の柱の一つである公開講座も、2023年5月に新型コロナウィルスが感染法上の5類に移行されてから、徐々に以前の開催状況に戻すことができています。講座で学ぶ内容（コンテント）そのものではないのですが、コロナ禍では叶わなかった、相手の声や表情が豊かに伝わってくる中でのわかちあいや、お茶とお菓子をいただきながらの休憩時間が少しずつ増えてきて、リアルな関わりの中で起きるプロセスが、それぞれの多様なあり方に気づいていくために、どれだけ大事なものかを実感しています。

さて、今回もセンター員の多様な研究成果が集まり、第24号の『人間関係研究』をお届けする運びとなりました。特集のテーマは、「対話」です。それぞれの論文から、対話にも様々なアプローチの可能性があることに気づき、そのような対話を通して、自分や他者に気づく可能性をまだまだ広げ深めていけそうだとわくわくしています。研究ノート・実践報告・資料としてお寄せいただいた内容は、いずれも、体験を通して学ぶことを大切にする当センターの活動に、重要な視点や示唆を与えてくださるものだと感じています。みなさまにも、ご自身の実践活動や研究にご活用いただければ幸いです。また、昨年度に開催した公開講演会では、映画監督の今井ミカ氏にお越しいただき、「映画を通して『知る』多様な世界 ～ダブルマイノリティとして生きる～」というテーマで、大変興味深いお話をうかがうことができました。今井氏のご希望により、概要の掲載となっておりますが、ぜひご覧ください。

本号が、多様なあり方を尊重すること、また、人間性豊かな社会の実現に少しでも貢献できることを願いながら、みなさまのもとへお届けいたします。

南山大学人間関係研究センター長　**中　尾　陽　子**